App Bridge 設定ファイル・ログ取得手順

Ver.1.19.2

目次

１．はじめに 1

２．設定ファイル・ログ取得方法 1

2.1 App Bridge Monitor Windows Agent および App Bridge Kicker Windoos Agent 1
2.2 App Bridge Monitor Linux Agent（Ver1.9.0 以降）および App Bridge Kicker Linux Agent . 2
2.3 App Bridge Monitor Linux Agent（Ver1.9.0 未満） 2

３．ログ保存期間について 2

４．お問い合わせ先 2

１．はじめに

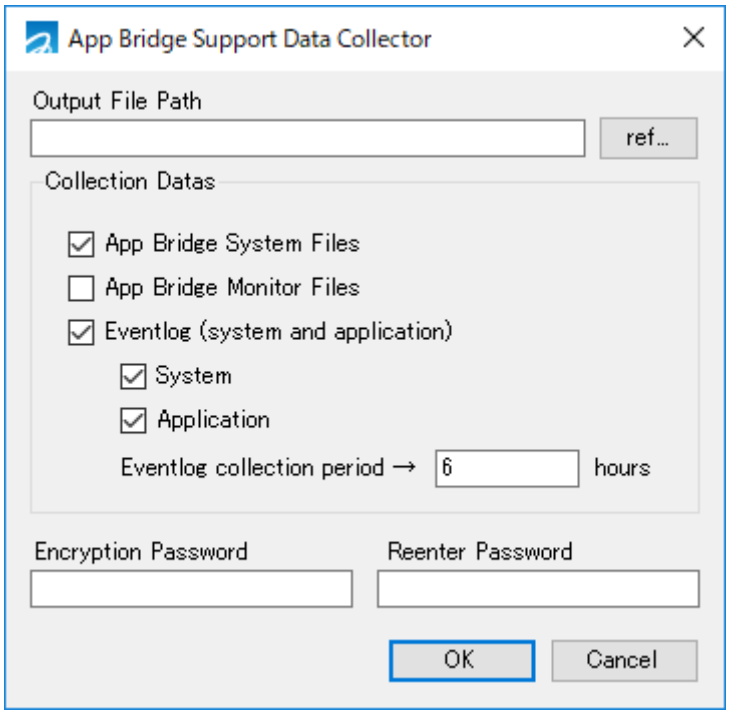
1.1　本書の役割

App Bridge 各 Agent の設定ファイル、ログ取得方法を記載します。

２．設定ファイル・ログ取得方法

2.1 App Bridge Monitor Windows Agent および App Bridge Kicker Windows Agent

該当の Windows サーバにログインし、[スタートメニュー]－[App Bridge Support Tools]－[Data Collector]を選択します。 表示された画面で、取得情報を以下のとおり指定して下さい。



#	項目	指定内容
1	OutputFilePath	任意のファイルパスを指定して下さい
2	App Bridge System Files	App Bridge の設定ファイルを所得します。通常チェックします
3	App Bridge Monitor Files	バックアップされた監視データを取得します。弊社サポート担当者から指示が無い限りチェック不要です
4	Eventlog / System	システムイベントログを取得します。通常チェックします
5	Eventlog / Application	アプリケーションイベントログを取得します。通常チェックします
6	Eventlog collection period	イベントログ抽出期間（経過時間）を指定します。長期間を指定すると処理に多くの時間を必要とする場合があります。事象発生時刻が含まれるよう指定して下さい。
7	Encryption Password	任意のパスワードを指定し、弊社サポート担当にお伝え下さい
8	Reenter Password	

2.2 App Bridge Monitor Linux Agent（Ver1.9.0 以降）および App Bridge Kicker Linux Agent

該当の Linux サーバにログインし、以下のコマンドを実行して下さい。
カレントフォルダに対象ファイル「UTCyyyymmdd.gz（yyyymmdd は UTC の当日日付）」が作成されます。

```
ucscollect
```

2.3 App Bridge Monitor Linux Agent（Ver1.9.0 未満）

該当の Linux サーバにログインし、以下のフォルダを取得して下さい。全てのファイル、サブフォルダが対象です。

（１）/etc/opt/ucs

（２）/opt/ucs

（３）/var/log/ucs

３． ログ保存期間について

ログは 5 日間保存されます。
問題が発生した場合、当該日時が含まれたログを速やかに取得して下さい。

４． お問い合わせ先

<<info@app-bridge.com>>宛てにメールでお問い合わせ下さい。